

令和4年度国際理解ワークショップ タイトル・要旨一覧

大学名	関連SDGs	代表者名	タイトル	要旨	WS形式 (対面・オンライン・どちらでも可)
新潟国際情報大学	4・10番	齋藤璃紗	世界の「食」のふしぎ発見！ ～私と君の「当たり前」～	グローバル化に伴い、様々な文化に触れる機会が増加している。しかしそれを差別してしまう人も存在するため、近年では「異文化理解」の重要度が増している。食は私たちが普段異文化を意識する場面の1つである。そこで本ワークショップでは、食を通じて自分と相手の「当たり前」だと思っていることの文化的背景を知ってもらい、参加者と共に考えたい。	対面
	10・16・17番	野沢桃葉	ラブとピースは君の中 ～隣人にやさしくあるために～	あなたは人間関係に悩んだ経験はないだろうか。相手の発言で嫌な気持ちになったとき、本音を伝えることや相手がなぜその発言をしたのかを考えることはむずかしいかもしれない。このように、自己理解や他者理解の不足がさまざまな争いごとにつながっている。本ワークショップでは、自分の心の声や相手の背景を考えられるような新しいコミュニケーション方法を一緒に学んでいきたい。	対面
	1・8・10番	坂爪知香	労働に見合わない報酬 ～私は嬉しい・誰かは苦しい？～	現在世界では児童労働や低賃金労働が問題となっている。どうすれば世界中の人々は正当な報酬を受けられることができるだろうか。このワークショップでは、フェアトレード(公正な取引)の観点から労働と報酬の正しい在り方について参加者と共に考えていく。ワークショップを通して、この問題が決して他人事では無いことを知ってもらい、日常生活に繋げてもらいたい。 【中学生、高校生】	対面
	13・14・15番	川崎帆乃樺	地球の限界 ～いつもどおりはいつまでであるの？～	本ワークショップでは、地球温暖化の原因と結果について取り上げる。地球温暖化によって引き起こされている気候危機が、日常生活に甚大な被害をもたらしている。その影響は、私たちの些細な行動の積み重ねによるものだ。地球温暖化問題に取り組むことの必要性を自発的に考えてもらい、一人ひとりの行動の変容を促したい。	両方
敬和学園大学	1・3・4番	小池 葉子	子どもが安心して生きられる社会って？ ～子どもの権利条約を手がかりに考える～	「みんなでよりよく生きることができる環境」とはどのようなものか。このワークショップでは、まず国連子どもの権利条約の中から「生きる権利」について学ぶ。そのうえで、彼らの多くが貧困のために生きる権利を享受できない現状を知り、その克服のために健康・福祉・教育の充実がいかに大切か、そのために私たちができることは何かを一緒に考える。	両方
新潟県立大学	12・13番 【英語】	関本輝	ファッションとSDGs ～エコを目指してクローゼットの中を見てみよう～	私たちの身近にあるファッションに視点をおき、環境保全の重要性を伝える。ファストファッションをはじめ、衣類製造に関する現状・問題点を理解し、その問題に対して私たちはどのような取り組みができるのか、サステナブルファッションなどを例に挙げて共に考えていきたい。	両方
	5番	塩野入一花	らしさって何？ ～日常にひそむ無意識の差別～	生徒が自身の中にあるジェンダーバイアスに気づき、“らしさ”を考えることを目標とする。まず偏見に気づけるような問題を提示し、それらを形成したメディアやジェンダー史を紹介する。さらに、生徒たちが自らジェンダー問題に向き合うゲームを行う。なお、ワークショップの中ではLGBTQや宗教についても言及する。	両方
新潟大学	10・16番	大野沙樹	世界遺産はだれのもの？	世界遺産の登録をめぐるのは、しばしば国と国との対立や衝突がみられる。とくに近代以降の歴史にかかわる遺産では、戦争や植民地化の記憶が残っているため、その論争は激しくなる一方だ。このワークショップでは、そうした負の歴史も踏まえつつ、世界遺産をまさに世界のもの＝みんなのものにするためのアイデアを議論したい。 【主な対象※：高校生】	両方
	5・10番	平野日奈太	映画と多様性	映画は社会の多様性を反映しているのか。近年、主要な映画祭では受賞作の条件として多様性を重視しつつある。娯楽／芸術性を追求すると同時に多様性にも配慮するような映画づくりにはなにが求められるのか。ジェンダー平等の問題にも目を向けながら、映画といまの私たちのあり方について議論する。 【主な対象※：高校生】	両方
上越教育大学	1・4・10・12・13・16番	増田 有貴	教室からつながる世界 ～私たちの身近にあるモノはどこから来るの？～	普段何気なく食べているもの、身に付けているもの、使っているもの。モノを通じて私たちとつながる国々は今、どんな状況にあるのだろうか？世界の諸問題とどんなつながりがあるのだろうか？カードゲームを通じて、私たちのモノの選択やあり方を考える。 【主な対象※：小学校中学年～中学生】	対面
	7・11・13・14・15・16・17番	清水 智子	郷土料理からSDGsを考えよう！ ～私のふるさと自慢は持続可能か？～	児童生徒が住んでいる地域の郷土料理からSDGsを考える。郷土料理の材料や作り手について、参加者が主体となって捉え、日本や世界の現実をもとに、その郷土料理が持続可能なのかを考える。最終的には、地域の課題をグローバルに捉え、持続可能な社会の創り手としての態度を育み、自ら行動するための一歩となることを目指す。 【主な対象※：小学校高学年から高校生】	対面
	2番	高橋隼悟	あなたの好きな食べ物はどこから来たの？	SDGsの達成項目は2番の「飢餓をゼロに」である。初めに食料自給率について学び、その後毎日の食事がどれだけ海外に頼っているかを知る。次に食料自給率が低いことによって起こる問題を学び、私たちの食生活は決して世界と無関係ではないことを実感し、自分達ができることを考える。 【主な対象※：中学生】	対面